

いこま

ご自由にお取り下さい。

近畿大学医学部奈良病院 広報誌

2018年 7月発行 Vol.13

新病院長・新事務長ご挨拶

西和地域ネットワークで、患者様視点に立った医療を提供



病院長 城谷 学

2018年4月1日より病院長に就任しました城谷 学です。様々なニーズにお答えして、患者様の視点に立った医療を提供できる病院に、と思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

当院ではセンター構想に立脚し、救命救急センター、心臓・血管センター、がんセンターが機能しており、複数の関連診療科の医師、コメディカルが患者様の病態について真剣に議論し、先端医療、精神的サポートを含め最善の治療を計画・決定していきます。

患者支援センターは、受診予約や退院後の療養計画等、地域医療機関との連携を推進するとともに、患者様やご家族が直面する問題の解決に向け、看護師や医療ソーシャルワーカーと一緒に寄り添う相談窓口になります。

さらに本年度から、地域包括ケアシステムに向かって総務省が進めるクラウド型EHR (Electronic Health Record) 高度化事業に参画し、ICT (情報通信技術 = Information and Communication Technology) の基盤強化を図ることになりました。当院を核に西和地域において、医療機関のみならず薬局や介護・訪問看護関連施設との間でネットワークを構築し、患者様の医療・健康・介護情報を共有することで、オンライン診療や迅速な病状把握・生活の質向上につなげようとするものです。

以上のように、皆様が安心して当院をご利用頂けるよう、職員一同さらなる努力を重ねてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

少子高齢社会に向け、さらなる連携強化、サービス向上へ

平成30年4月1日より、医学部奈良病院の事務長に着任しました家永 宗昭と申します。3月末までは、東大阪市の近畿大学に勤務していました。

さて、わが国は、世界に類を見ない少子高齢社会を迎えます。団塊世代が、75歳以上になり、介護と医療費の増大が目前に迫る2025年を視野に入れ、抜本的な見直しが必要と言われていきます。

こうした時代の流れを踏まえ、微力ではございますが、安定した病院経営、地域医療機関との連携強化、患者サービス向上等に努めて行きたいと考えておりますので、皆様方のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



事務長 家永 宗昭

CONTENTS

- P1 新病院長・新事務長あいさつ
- P2 新副病院長あいさつ／担当内容の紹介
- P3 部署紹介「膠原病内科」新設の紹介
- P4 部署紹介「脳神経外科」「心臓血管外科」
- P5 患者支援センターの紹介
- P6 医療安全管理部の紹介
- P7 栄養だより・薬剤コラム
- P8 院内書籍売店の紹介・編集後記

副病院長ご挨拶

近畿大学医学部奈良病院、4名の副病院長からのご挨拶です



放射線科 教授
岡嶋 馨

担当：安全管理・
教育研修

私が近畿大学医学部奈良病院に着任して早くも19年が経ちました。思えばこの間、生駒市・平群町はじめ地域の方々との触れ合いの中で、実に多くのことを学ばせて頂きました。

病院全体としても、多くの患者様はもちろん近隣の病院や診療所、在宅支援センターの皆様とも連携が深まってきたことは大きな財産です。私の専門は放射線診療と病院職員の教育、および広報ですが、その充実を通して多くの人の健康に貢献する所存です。どうか今後も奈良病院をよろしくお願い申し上げます。



耳鼻咽喉科 教授
家根 旦有

担当：地域連携・外来

このたび副病院長に就任しました耳鼻咽喉科の家根旦有です。担当は地域連携・外来担当です。具体的に言いますと外来診察、患者支援、広報など患者サービス全般が私の役目です。私は9年前に奈良医大から赴任して参りましたが、この近大奈良病院は本当に素晴らしい病院だと思っています。この素晴らしい病院をもっと素晴らしい病院にするためには、患者様のご意見が必要です。ぜひ投書ポストか直接私にご意見をお聞かせ願えればと思っています。それがこの病院をより良くする方法だと思っています。皆様、何卒よろしくお願い致します。



がんセンター長・教授
湯川 真生

担当：手術部・
がんセンター

この春から副病院長を拝命致しました。がんセンター長を兼任しています。当院でもI.T.(情報技術)による医療分野の進歩を積極的に取り入れています。緊急時頭部MRIは、より短時間でより精密な検査となり、地域病診連携では、「やまと西和ネット」で患者様にかかる手間をより少なくしようとしています。その一方で、人間を癒せるのは人間であると信じ、すべての職種のスタッフが患者様に寄り添う事を目標にして、これが近大らしさとなるような組織作りに微力ながら貢献できるよう努力いたします。よろしくお願い致します。



呼吸器内科 教授
村木 正人

担当：病棟管理

病棟管理を担当しています。具体的には、いかに治療を安全・適切・確実・スピーディーにするか。クリニカルパスによる医療の効率化・標準化もとり入れることにより、満床状態を回避し入院患者様の受け入れをすみやかにいきます。地域の医療機関や救急隊からの緊急入院依頼の全応需。最新の医療提供。退院支援のさらなる充実化。などです。

そして、患者様に安心して入院生活を送って頂けるよう、そして充実した医療が受けられるように職員一丸となって力を尽くしていきます。



膠原病内科

2018年4月より医学部血液膠原病内科の支援のもと、膠原病内科を開設させていただくことになりました。当院開院以来、膠原病診療は血液内科で行っていましたが今後は外来、入院診療とも膠原病内科が担当することになりました。

当科では全身性エリテマトーデス、関節リウマチや強皮症などの古典的膠原病、血管炎症候群、成人スティル病、リウマチ性多発筋痛症などの疾患を対象としています。

近年の診断技術、治療薬の進歩によりかつての難病のイメージは払拭されつつありますが、それでもやはり長期にわたる治療が必要な疾患です。これらの疾患に治癒をもたらすことは困難ですが、多くの場合小康状態を保つことは可能だと考えています。

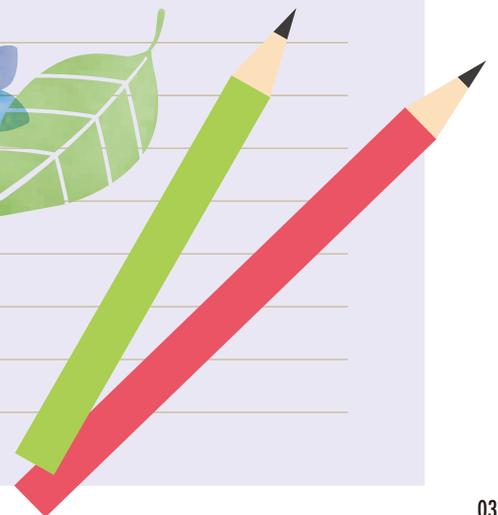
また、近年、生物学的製剤の登場により関節リウマチの治療が劇的に進歩し、たくさんの患者様たちがその恩恵を受けられるようになりました。一方で合併症が多く、副作用に注意しながら診療しなければならない症例も増えています。整形外科・リウマチ科の先生方とも連携しつつ、一人でも多くの膠原病・リウマチ患者様のお力になればと考えています。

(文責:杉山 昌史)



診療案内

古典的膠原病: 関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎 / 多発性筋炎、全身性強皮症
膠原病類縁疾患: 顕微鏡的多発血管炎や大動脈炎症候群などの血管炎症候群、ベーチェット病、成人スティル病、リウマチ性多発筋痛症など





脳神経外科

4月1日より脳神経外科の陣容が大きく変わりました。診療部長の泉本をはじめ3名が加わり、計4名で活動しています。脳血管障害、脳腫瘍、外傷、機能系脳疾患など、多岐にわたる担当領域があります。脳血管障害のときは、血管を再開通したり、バイパスの通路を造ったり、破裂、出血を防いだり、障害脳の範囲を少なくします。そのため充実した体制(救命センターとの連携、24時間画像血液検査、早期薬物治療や血管内治療、外科的治療)がとられています。脳腫瘍治療では良性脳腫瘍はもとより、悪性腫瘍では、安全かつ最大限の腫瘍摘出、遺伝子診断に照らした化学療法、連携による放射線治療、さらに最近では、頭に電極を貼る電場療法(NOVO-TTF)が施設認定の下で保険適応され、いずれも最善の治療を提供します。

(文責: 泉本 修一)

診療案内

脳腫瘍(良性脳腫瘍・悪性脳腫瘍)、
脳血管障害(脳出血・くも膜下出血・脳梗塞など)、
頭部外傷(脳挫傷・硬膜外血腫・慢性硬膜下血腫など)、
機能的脳疾患(顔面けいれん・三叉神経痛・てんかんなど)、水頭症など
脳神経外科領域全般



心臓血管外科

前任の西脇登教授の定年退官に伴い、4月より田村暢成が着任致しました。成人の心臓および動脈の疾患に関して手術を中心とした治療を行っています。動脈硬化が原因の狭心症や心筋梗塞の患者様には冠動脈バイパス術、心臓の弁が悪くなる弁膜症患者様には弁置換術や弁形成術を、大動脈瘤の患者様には人工血管を用いた手術やステントグラフト手術を行っています。ひとりひとりの患者様に最適な治療法を選択しています。動脈硬化の原因となる高血圧、高脂血症、糖尿病などの疾患や心不全の患者様には関連各科とも連携して治療を行います。

(文責: 田村 暢成)

診療案内

虚血性心疾患、心臓弁膜症、大動脈疾患、先天性心疾患、
末梢血管疾患、不整脈等 心臓血管外科領域全域



相談窓口

お気軽に
ご相談ください。



患者支援センター

患者支援センターは、看護師7名 入院支援3名 退院支援4名で担当しております。高度急性期医療を必要とする患者様が、安心して入院・治療を受けることができるように、3つの機能に分かれて支援しております。まずは①地域の医院・診療所・クリニックから紹介頂いた患者様がスムーズに受診できるように支援する前方支援②入院治療が必要となった患者様が、安心して入院生活を送るための準備を支援する入院支援③治療が終了したら、住み慣れた地域もしくはそれに代わる療養環境へ、スムーズに移ることができるように支援する後方支援に分かれて、地域医療に貢献しております。受診から入院及び退院に至るまで、「近大奈良病院を受診したい」「介護保険を使う方法は」「退院後の医療は何処でうけるのか」等のお悩みは、患者支援センターにご相談下さい。

(文責:加藤 満帆)



患者支援センターの事務担当からのご案内

患者支援センター事務担当は、家根センター長(耳鼻咽喉科)、塩野副センター長(呼吸器外科)の指導のもと、看護師、メディカルソーシャルワーカーと協力し、地域の医療機関と連携し、患者様の紹介診察を受け入れる、いわば病院の玄関のような部署です。患者様、医療機関のみなさまに安心していただけるよう努めてまいりますのでどうぞよろしくお願い致します。

最近のトピックスとして、医療・介護に関するみなさまの健康情報を、地域の医療機関や介護施設などで共有し、有効に活用することで安心なくらしに貢献する「やまと西和ネット」を担当するのもわれわれの部署です。このシステムが価値あるものとして末永く運用されるためには、多くのみなさまのご理解とご参加が必要です。詳しくは2階総合待合に開設しております説明窓口まで、お気軽にお声がけください。

「やまと西和ネット」
あなたの健康のために、ぜひご参加ください！

「やまと西和ネット」とは？
西和医療圏の病院・医科歯科診療所・薬局・介護事業所で住民の皆さんのご病気・お薬・検査結果などの情報を共有することでより安全で質の高い医療・介護・健康サービスを提供できるようになります

どんな良いことがあるの？

- ①多職種が情報を共有する事で、余分な検査や、薬の重複を防ぎます。
- ②専門職が患者情報を同時に共有することで、速やかに適切な治療が可能になります。
- ③万一の災害の際にも、情報を残すことができ、治療・介護を継続しやすくなります。

参加したいけど、こんな不安や疑問ありませんか？

私の個人情報漏れないか心配。

国が定めるガイドラインの通り、強固なセキュリティ対策を行っています。また、利用者にも厳格な規約・規定が決められており、これらを守ることが義務づけられています。ご希望により、情報を開示する施設を限定する事も可能です。

どんな情報がやりとりされるの？

氏名・性別・生年月日・住所など患者を特定するための情報と、これまでの病名・薬の内容・検査結果・生活動作情報など医療・介護のサービスに必要な情報です。

誰かが勝手に私の情報を見ないか心配。

医師・歯科医師だけではなく、必要に応じて薬剤師・看護師・介護職員等、参加している施設の職員も情報を参照する場合があります。ただし、職務内容に応じて参照できる情報や使用できる機能に制限が設けられているほか、職務範囲外や目的外で情報を利用することは厳しく禁じています。また、情報の開示を希望されない施設があれば、お申し込みの際にお知らせください。

お問合せ先：近畿大学医学部奈良病院
地域医療介護連携推進協議会 事務局
Eメール：info@yamato-seiwa.net
URL：yamato-seiwa.net

(文責:田花 永久、亀田 啓介)



医療安全管理部

患者様にとって、間違いのない確実な医療をうけることは、病院に対し当然求めることです。これは病院職員にとっても同じであり、患者様に信頼されるよう、安全・安心な医療を提供できるよう日々努力し続けています。

近畿大学医学部奈良病院でも、「患者本位の開かれた病院として、安全で質の高い先進医療を提供する」ことを理念に掲げ、職員全員で様々な安全対策に取り組んでおります。



そのような活動の中心にあるのが、
今回皆様にご紹介する医療安全管理部です。

医療事故を減らし、患者様が安心して安全な医療を受けられる環境を整えることを目的に、平成25年から活動を開始いたしました。院内における安全体制の整備、医療安全に係る研修の企画や運営、及び各種委員会との連絡調整を行っています。

活動の一つとして、毎月行われている医療安全委員会では、各診療科・所属で選ばれたリスクマネージャーが一同に集まり、院内の医療安全について様々な議論を交わし、安全な医療が提供できる環境づくりにむけ取り組んでいます。このような活動を継続することは、病院職員間のチームワーク力を高めることにつながっていると思います。

また、今年度もっとも力を注いでいることの一つとして、患者様間違いの事故を減らすことを挙げています。

間違いを減らすためには、様々な場面で患者様のお名前を確認させていただき、患者様にもご協力いただきたいと、院内にこのようなポスターを掲示しております。

病院職員から「お名前をお願いします。」と言われたら、名乗っていただくようご協力をお願いいたします。



安全な医療提供には、医療チームの一員である
患者様、ご家族の協力が不可欠です。

(文責：医療安全管理部 柏野 令子)

栄養だより

なるほど納得!?～脱水予防～

日に日に暑さが増してきました！この時期になると暑くて汗をたくさんかきます。汗をたくさんかいたら水分と塩分を補うことは大切です。しかし、気づかぬうちに塩分を過剰に摂取している可能性があります。

日本人の平均食塩摂取量は10g/日※とされています。日本人の食事摂取基準(2015年版)では、成人男性で8g/日未満、成人女性で7g/日未満を目標値とされています。血圧コントロールの必要な方は6g/日未満が推奨されています。

日常生活で汗をかいた場合、食塩摂取は熱中症対策として必要ですが、食事がきちんととれていれば普段のお食事で十分に補えている場合が多いです。食塩を必要以上に摂取してしまうと生活習慣病の予防、改善に好ましくないので注意が必要です。

★水分をとるときのポイント★

- ①運動する前や運動中に
- ②口渇を感じる前に
- ③飲水からは1.0～1.5L/日の摂取を



水やお茶で水分をこまめにとろう！



水分制限をおこなっている方は主治医の先生にご相談ください。

※平成28年度国民健康・栄養調査

(文責:内本 可奈子)

薬剤コラム

薬の基礎知識 その9 いろいろなお薬のカタチ

飲まなくてはいけないお薬が大きすぎる、多すぎるなど、その他様々な理由でお薬が上手く飲み込めず喉に詰まったり、口の中に残って気持ち悪くなったりしたことはありませんか？

お薬の世界は日進月歩。より効果的で、より副作用の少ないお薬が開発されています。今回はお薬の様々なカタチ(剤形といいます)の内、口から飲み込みやすいよう工夫されたお薬と、口から飲み込む以外のお薬をご紹介します。

口から飲み込みやすいよう工夫されたお薬

■ドライシロップ

甘みをつけた粉ぐすりです。「粉」のままでも、水に溶かしても服用することができます。



■OD錠

Orally Disintegration、「口腔内崩壊錠」の略語です。

口の中に入れるとすぐに唾液で溶けるお薬で、服用する際に噛み砕いたり水を飲んだりする必要がありません。

少量の水で溶解



■ゼリー剤

飲み込みをスムーズにする事で、喉の炎症等の副作用を予防し、ゼリー剤が開発されているお薬があります。
【お口から】飲み込むのは錠剤と同じですが、飲み込みやすさが非常に改善されています。



口から飲み込む以外のお薬

■坐薬

肛門や膣から挿入することで効き目を発揮するタイプのお薬です。お口からの摂取と違い、直腸から吸収される為、より直接的に全身に作用します。



■貼り薬

局所的な痛み止めに使われる貼付剤やパップ剤の他、「経皮吸収製剤」と呼ばれる、全身への作用を目的としたお薬があります。

ここに紹介した以外にもチュアブル錠、ODフィルム、点鼻スプレーなど様々な剤形があります。

剤形を変えられないお薬でも、同じ効果のお薬で飲む回数が少ないお薬や小粒のお薬に変更できる可能性があります。

お薬が飲みにくくてお悩みの方は、是非一度薬剤師へご相談下さい。

(文責:榎本 彩・木村 直登)

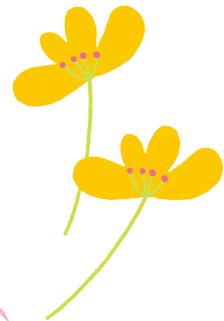
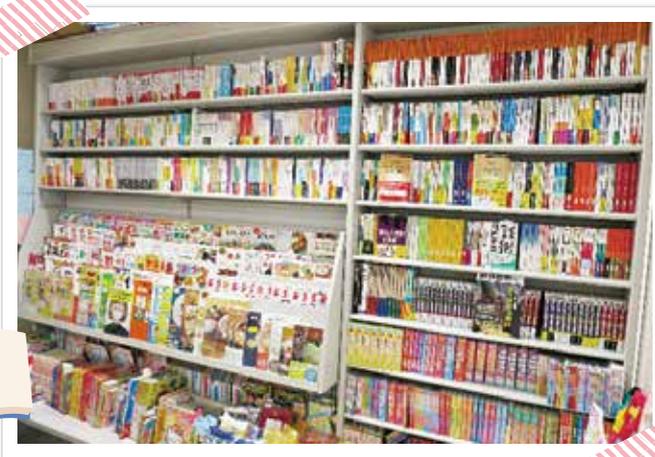


KINDAI BOOKS

B1F

地下売店・本屋のご紹介

本選びのセンスが抜群なおススメスポット！本のリクエストも可能です！



皆さんは地下売店の本屋さんをご存知でしょうか。ほんの数坪の売り場に子供から大人まで興味のある本が所狭しと並べられています。こんなにコンパクトで素晴らしい品ぞろえの本屋さんは見たことがありません。近大奈良病院自慢の本屋さんです。担当の方が新聞や雑誌の書評をみて選んでいるそうです。本選びのセンスが抜群です。読みたい本があれば注文もできます。ぜひご利用ください。

(文責・家根 且有)



編集
後記



今号から新しく広報委員長になった家根です。広報誌「いこま」がこれまで以上に充実した広報誌になるよう関係者一同努力して参りたいと思っています。皆様のご家庭にいつまでも置いていただけるような魅力ある広報誌が目標です。もし何かご要望がありましたら何なりとお申し出ください。お待ちしております。

(担当:家根 且有)



近畿大学
KINDAI UNIVERSITY

近畿大学医学部奈良病院

〒630-0293 奈良県生駒市乙田町1248-1 TEL 0743-77-0880
E-mail: infonara@med.kindai.ac.jp http://www.kindainara.com

発行日 平成30年7月17日

発行場所 近畿大学医学部奈良病院

編集 広報委員会